

2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 言語聴覚士学科 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義実習 |
|-------------------|---|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------|--------|
| 科 目 名 | 聴力検査 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) |
| 対 象 学 年 | 1年 | 学 期 | 後期 | 教 室 名 | |
| 担 当 教 員 | 中谷 和子 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | <p>公立病院で耳鼻いんこう科専属の言語聴覚士として勤務している。 外来診療で、成人の難聴・内耳疾患や顔面神経麻痺・前庭神経炎等の末梢神経疾患に対応した各種聴覚検査とリハビリテーションを担当している。 また幼児難聴外来で幼児聴覚検査と言語リハビリテーション、補聴器外来で補聴器フィッティングと補聴器適合検査も担当している。 日本言語聴覚士協会・日本聴覚医学会・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・日本顔面神経学会 会員</p> | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | <p>言語聴覚士として習得しておくべき聴覚検査の種類とそれぞれそれぞれの原理・対象疾患について学び、聴覚検査実践の基礎を身につけます。</p> | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | <p>試験で評価します。</p> | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | <p>原晃「聴覚検査の実際」、改訂4版、南山堂、2017年 藤田郁代「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」、第3版、医学書院、2021年 その他 資料を適宜配布します。</p> | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | <p>予習、復習をしてください。</p> | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 授業の進め方の説明と、医療現場での聴覚検査の実際を知る | | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | オリエンテーション | | | |
| 第 2 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 聴覚器官の構造・機能の概要を知る | 原晃「聴覚検査の実 際」、改訂4版、南山 堂、2017年 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 聴覚検査の予備知識 | | | |
| 第 3 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検査の意義と検査者の心構え、純音聴力検査の原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実 際」、改訂4版、南山 堂、2017年 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 検査者の心得 純音聴力検査① | | | |
| 第 4 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 純音聴力検査の原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実 際」、改訂4版、南山 堂、2017年 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 純音聴力検査② | | | |
| 第 5 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 純音聴力検査の原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実 際」、改訂4版、南山 堂、2017年 | | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 純音聴力検査③ | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|-------------|---|---|---|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 自記オージオメトリー・閾値上聴力検査 | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 語音聴力検査 | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | インピーダンスオージオメトリー・耳管機能検査 | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 選別聴力検査・聴性誘発反応・耳音響放射 | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 乳幼児聴力検査 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | オージオメーター、インピーダンスオージオメーター、幼児聴力検査機器を実際に操作し検査方法を習得する | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | 聴覚検査室で実施します。純音聴力検査・語音聴力検査・インピーダンスオージオメトリーの復習をしておくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 聴力検査演習 | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 後迷路障害の検査・機能性難聴の検査・耳鳴検査 | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 原晃「聴覚検査の実際」, 改訂4版, 南山堂, 2017年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 補聴器装用のための検査・人工内耳のための検査 | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | 検査の種類及び原理・意義と検査方法を知る | 藤田郁代「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」, 第3版, 医学書院, 2021年 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 平衡機能検査 | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | | ・「聴覚検査の実際」, 改訂4版 ・「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」, 第3版 ・これまでの配布資料 | |
| | 各コマにおける授業予定 | 総括・復習 | | |